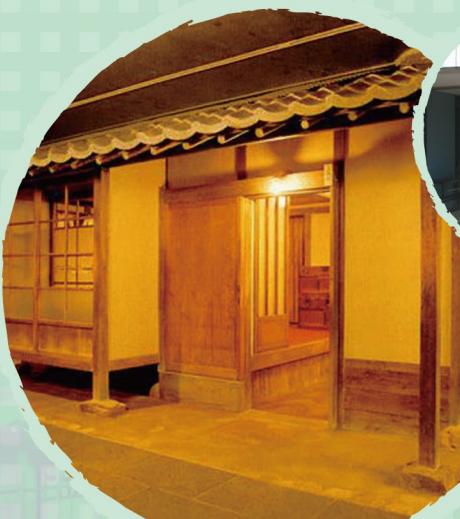


いばらき 文学館 ネットワーク



大阪府の北部に位置する茨木市は、さまざまな史跡とともに、文学館が3館ある、全国でも珍しい文化の香り高いまちです。3つの文学館、それぞれの魅力をご紹介いたします。



富士正晴記念館



宮本輝ミュージアム



川端康成文学館



川端康成文学館

日本人として初めてノーベル文学賞を受賞した川端康成の業績を顕彰し、川端文学に親しむ拠点とするため、1985(昭和60)年に開館しました。主な事業として、川端康成生誕月記念展覧会、川端文学や近代文学に関する文学講座、川端康成文学館俳句コンクール、小中学生のための夏休み企画展などを開催しています。



かわばた やすなり
川端 康成 (1899~1972)

大阪市北区此花町(現・天神橋1丁目)に生まれ、幼時に両親を相次いで亡くし、三島郡豊川村(現・茨木市宿久庄)の祖父母に引き取られる。豊川尋常小学校(現・市立豊川小学校)から府立茨木中学校(現・府立茨木高等学校)に首席で入学。中学2年で作家を志し、創作も始め小品や短歌を投稿。第一高等学校、東京帝國大学文学部国文学科卒業。横光利一らと「文藝時代」を創刊、新感覺派の代表的作家として出発。『伊豆の踊子』『雪国』『千羽鶴』『山の音』『眠れる美女』『古都』など、相次ぐ肉親の死と孤独のうちに美を求め続けた作品を発表。1968年、ノーベル文学賞を受賞。満72歳で自らの生涯を終える。



「作家体験」もできる書斎再現コーナー

展示紹介

直筆原稿をはじめとする関連資料、約3,400点を収蔵。常設展示では、祖父母や父に関する手紙等の資料、幼少時の手習いや作文帳、中学時代の作文や手紙の他、写真、書簡などを紹介。また、幼少期の屋敷模型、「作家体験コーナー」が好評。記念室では、年に3~4回、テーマ展を開催しており、近年では、川端康成直筆墨書の展示、『古都』・『伊豆の踊子』などの作品や「康成の小・中学時代」をテーマにした展示を行った。

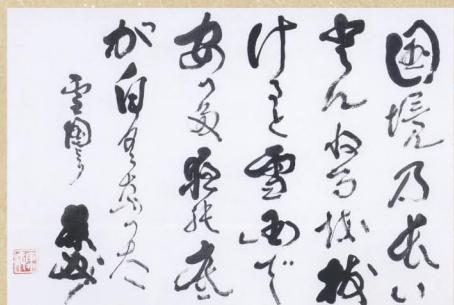
お宝紹介



『山の音』の原稿



「十六歳の日記」が書かれた
幼少期の屋敷模型(1/20)



直筆墨書『雪国』巻頭

■住 所：〒567-0881 大阪府茨木市上中条二丁目11-25

TEL 072-625-5978

FAX 072-622-9858

■開館時間：9:00～17:00

■休 館 日：火曜日、祝日の翌日、12月28日～翌年1月4日

■交通アクセス：JR茨木駅より約1.4km、阪急茨木市駅より約1.3km

名神茨木ICから約1.7km

■ホームページ：www.city.ibaraki.osaka.jp/shisetsu/kyoikubunka/1317033511310.html



郷里あるいは出身地がどこかと聞かれると、私はいつも次ぎのように答えた。東海道線、京都・大阪の中間の茨木駅から北へ一里半ばかりはいった、小さい農村、と。別の言い方をする時もあった。大阪平野のほぼ北の果てで、こから奥は丹波の山地になる山のふもとの小さい村、と。そして箕面の山づづきである、と。西国順礼の札所の古寺、勝尾寺は私の村だが、知る人が少く、箕面の山づづきと言えば、うなづく人もある。



茨木を描く

「私のふるやこと」より

富士正晴記念館

茨木市安威の竹林に住して、「竹林の隠者」と称され、同人誌『VIKING』を創刊して、多くの後輩作家を育てた詩人・小説家の富士正晴氏が、生前に収集されていた文学資料や、自作の絵画など約8万点を収蔵、展示しています。没後、1988(昭和63)年、富士家より茨木市に寄贈された資料を展示する目的で、茨木市立中央図書館に併設して開館しました。



ふじまさはる
富士 正晴 (1913~1987)

徳島県三好郡に生まれる。旧制三高に学び、野間宏(野間の妻は富士の妹)らと出会う。1947年に島尾敏雄らと同人誌『VIKING』を創刊、多くの作家を育てた。1951年、茨木市安威の竹林に転居、竹林の隠者と称される。1968年に『桂春園団』で毎日出版文化賞、1971年に大阪芸術賞受賞。代表作に『賤・久坂葉子伝』『往生記』など。数多くの小説、エッセイを残し、また座談の名手でもあった。『たんぽぽの歌』は『豪姫』と改題され、宮沢りえ主演で映画化された。関西における芸能の研究でも知られ、作家の司馬遼太郎など多くの著名な文学者と深い交流があった。



安威の旧富士邸から移築・再現した書斎

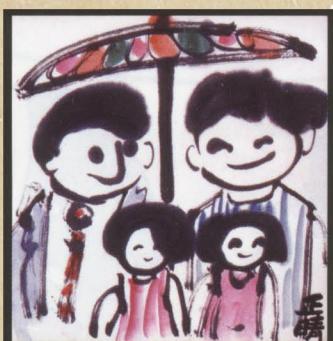
展示紹介

直筆原稿をはじめとする関連資料、特に戦前、野間宏らと出した『三人』、戦後、島尾敏雄らと出した『VIKING』などの同人誌、数多くの文学者との約5万通に及ぶ往復書簡、直筆絵画・書・版画など約8万点を収蔵。年に3回、富士正晴ゆかりの文学者との交流を中心としたテーマ展、近年では「開高健展」、「賤・久坂葉子伝」展、「青山光二、富士正晴展」などを開催している。

お宝紹介



同人誌『VIKING』



絵画『四人家族の図』



版画『童子』

■住所：〒567-0881 大阪府茨木市畑田町1-51(中央図書館併設)

TEL 072-627-7937 FAX 072-627-7936

(中央図書館共用)

■開館時間：9:30～17:00

■休館日：第2・3・4・5月曜日(祝日と重なる場合は開館し、その翌々日が休館)、年末年始、中央図書館の資料点検期間

■交通アクセス：JR茨木駅と阪急茨木市駅から、阪急バス(80系統、82系統)「中央図書館前」バス停下車すぐ。名神茨木ICから約1.1km

※なお、中河原南口行きは、中央図書館前を通らない便もありますので、乗車前にご確認ください。

■ホームページ：www.city.ibaraki.osaka.jp/shisetsu/kyoikubunka/1319786859909.html



やぶの中の傾いた小家にどじこもって、全然といつても
いくらい外出をせず、小世界に安住しているみたいなの
で、人は不思議がつて、お前の狭い周辺について、何か見
聞するところを記せと注文
する。
(中略)二十年ほど前は、
東西南北みな竹やぶであつ
た。ところが数年前、このあ
たりだけ集中豪雨が降つた
時、東側の竹やぶは地くずれ
して下の方へ流れ去つてなく
なつてしまつた。



茨木を描く
「縮図」より

「縮図」より

宮本輝ミュージアム

追手門学院の創立120周年事業の一環として、2005年5月、開館した「宮本輝ミュージアム」では本学第一期卒業生で、作家として活躍する宮本輝氏の愛用品、直筆原稿などを常設展示しています。また、宮本輝氏の著作を通して、学生及び市民の皆様に感動と共感の場を提供することを願って、作品の世界を取り上げた企画展を開催し、広く一般の方へも公開しています。



みや もと てる
宮本 輝 (1947~)

兵庫県神戸市に生まれ、愛媛県、大阪府、富山県に転居を繰り返す。関西大倉中・高等学校から、1970年追手門学院大学文学部卒業。大学卒業後、広告代理店に就職したが、不安神経症のため退職、執筆を開始する。その後、結核のため二年ほどの療養生活を送るが、回復後、旺盛な執筆活動をすすめる。1977年、『泥の河』で太宰治賞、1978年、『螢川』で芥川龍之介賞、1987年、『優駿』で吉川英治文学賞、2004年、『約束の冬』で芸術選奨／文部科学大臣賞文学部門受賞。2010年、『骸骨ビルの庭』で司馬遼太郎賞受賞、同年、紫綬褒章受章。



貴重資料を展示するコーナー

展示紹介

幼い頃からの写真、数々の愛用品、直筆原稿（複製）、学生時代のアルバムなど、ゆかりの品々を常設展示。年2回の企画展では、映画のポスターや新聞記事等、さまざまな角度で捉えた作品世界を見ることができる。全作品を収めた書籍棚があり、希望者には貸出も行っている。また、宮本輝作品の世界観にせまる単独インタビューや作品の舞台をたどる映像を館内で視聴することができる。

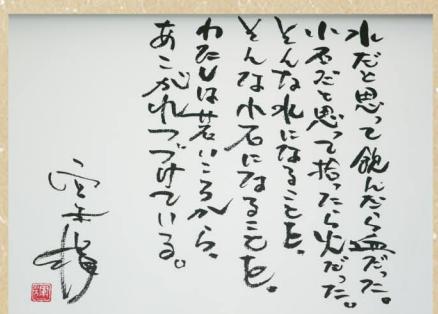
お宝紹介



愛用のHAKASEの万年筆



芥川賞正賞の懐中時計



ミュージアム開設にあたり
揮毫した自筆の詩

■住 所：〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15
(追手門学院大学附属図書館内) TEL 072-641-9639

■開館時間：下記URL内の「開館カレンダー」をご覧ください。

■休 館 日：JR茨木駅と阪急茨木市駅からスクールバスを運行。また、JR茨木駅から、阪急バス(82系統、88系統)「追手門学院前」バス停下車すぐ

■ホームページ：www.oullib.otemon.ac.jp/teru/index.html



三月半ばの強い雨の降る寒い日、椎名燎平は、あまり気のすすまないまま、大阪郊外茨木市に開学となる私立大学の事務所へ行った。大学は田園や農家に囲まれた衛星都市の一角の、小高い丘の上に建っていた。真新しい校舎のあたりからときおり強い風が吹き降りてきて、長いアスファルトの坂道をのぼつて行く燎平のズボンや安物のスウェードの靴をびしょ濡れにした。(中略)
入学手続き最後の日で、そのうえ夕暮近かつたから、出来あがつたばかりの閑散としたキャンパスには人づ子ひとりいなかつた。



創設時の茨木キャンパス

茨木を描く

「青が散る」より